

十字架のことば (6)

—第5のことば：苦痛の叫び—

ヨハ 19：28～29

「この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、『わたしは渇く』と言われた。そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した」

1. はじめに

(1) 「十字架のことば」には7つある。

①前半：午前9時から正午までの間の3時間

*3つのことば

*他人に関するものである。

②後半：正午から午後3時までの間の3時間

*4つのことば

*自分に関するものである。

(2) 第1のことばは、赦しの祈りである。

「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」

(ルカ 23：34)

(3) 第2のことばは、救いを約束することばである。

「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」(ルカ 23：43)

(4) 第3のことばは、愛のことばである。

「女の方。そこに、あなたの息子がいます」(ヨハ 19：26)

「そこに、あなたの母がいます」(ヨハ 19：27)

(5) 第4のことばは、絶望の叫びである。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」

「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マタ 27：46)

(6) 第5のことばは、苦痛の叫びである。

「わたしは渇く」(ヨハ 19：28)

- ①第4のことばは、魂の苦痛を表現することばである。
- ②第5のことばは、肉体の苦痛を表現することばである。

2. アウトライン

- (1) イエスは、人間性を持っておられた。
- (2) イエスは、メシア預言を成就された。
- (3) イエスは、私たちの身代わりとなられた。

3. 結論：このことばの現代的意味について考える。

このメッセージは、第5のことばの意味について考えるものである。

I. イエスは、人間性を持っておられた。

1. イエスの2面性

- (1) イエスは神であり、人である。
 - ①これは、使徒たちの教えであり、教会の伝統である。
 - ②これ以外の教えは、異端的教えである。
- (2) 第5のことばは、イエスが人間性を持っておられたことを示している。

2. 十字架刑の痛み

- (1) 種々の痛みがある。
 - ①傷による痛みと熱
 - ②呼吸ができないこと
 - ③しかし、「渇き」こそが最大の痛みである。

(例話) マムルーク朝時代(13~16C)、ダマスコで青年将校が十字架に付けられた。
金曜日に十字架に付けられ、日曜日の午後に死んだ。
最初の日、水を求め続けた。それ以降静かになり、左右を見渡していた。
- (2) 兵士たちは、「苦みを混ぜたぶどう酒」(マタ 27:34)を与えようとした。
 - ①イエスはそれを拒否した。
 - ②意識がはっきりした状態で、メシアとしての役割を果たそうとされた。
- (3) 兵士たちは、イエスに「酸いぶどう酒」を与えた。
 - ①イエスはそれを受けた。

- ②これは、ワインビネガーと水を混ぜたもので、兵士たちの飲み物であった。
- ③喉を潤し、最後のことばを大声で発音するためであろう。

II. イエスは、メシア預言を成就された。

「この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、『わたしは渇く』と言われた」(ヨハ19:28)

1. 「すべてのことが完了したのを知って」

(1) イエスの意識は明瞭である。

- ①「苦みを混ぜたぶどう酒」(鎮痛剤)を拒否しておられた。

(2) 完了したとは

- ①十字架上の1~4のことばが終わった。

・イエスは、人々のための祈りを終えた。

- ②より広く見ると、イエスの生涯すべてが従順な歩みであった。

- ③イエスは、ご自分の死が贖罪のために死であることを知っておられた。

2. 「聖書が成就するために」

(1) 訳文の比較

「この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、『渇く』と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した」(新共同訳)

- ①機械的に、あるいは演技として、「わたしは渇く」と言われたのではない。

- ②「渇き」は現実のものであり、この叫びは真実なものである。

- ③その結果、メシア預言が成就したのである。

(2) イエスの生涯において、数々のメシア預言が成就した。

- ①ここでは、「渇き」に関する預言が成就した。

3. 詩22:15

「私の力は、土器のかけらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついていました。あなたは私を死のちりの上に置かれます」

(1) 第4のことばは、詩22:1からの引用であった。

「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マタ27:46)

- ①この詩篇は、最後は勝利のことばで終わっている。

- ②イエスは、第5のことばでも、詩22篇を引用している。

4. 詩 69 : 21

「彼らは私の食物の代わりに、苦味を与え、私が渴いたときには酔を飲ませました」

(1) この詩篇は、メシアの受難の詩篇である（作者はダビデ）。

①これ以外に、詩 69 篇が引用されている箇所がヨハネの福音書に 2 箇所ある。

②ヨハ 2 : 17 と 15 : 25 である。

(2) ヨハ 2 : 17

「弟子たちは、『あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす』と書いてあるのを思い起こした」

①これは、詩 69 : 9 のことである。

(3) ヨハ 15 : 25

「これは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と彼らの律法に書かれていることが成就するためです」

①これは、詩 69 : 4 のことである。

5. 「酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて」

(1) ここでヒソブが出て来るのはおかしいと考える学者もいる。

①ヒソブは短い枝である。

②しかし、短くても目的に合っている（イエスの体はさほど高くない所にあった）。

(2) 出 12 : 22

「ヒソブの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない」

①ヒソブは、過越の祭りの際の儀式で用いられている。

②イエスが「神の小羊」として死のうとしていることを示している。

③過越の祭りは、イエスの死によって成就した。

Ⅲ. イエスは、私たちの身代わりとなられた。

1. 大いなるパラドックス

(1) 命の水の提供者が、渇きで苦しまれた。

①ヨハ 4 : 14 では、「永遠のいのちへの水」がサマリヤの女に提示された。

②ヨハ 7 : 38~39 では、仮庵の祭りの時に、「生ける水の川」が約束された。

(2) イエスは、「命の水」の源であると同時に、渇きを覚えるお方である。

①イエスの二面性（神であり人である）が現れている。

2. 神の怒りの杯

「そこで、イエスはペテロに言われた。『剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう』」（ヨハ 18：11）

(1) イエスは十字架上で、神の怒りの杯を飲み干された。

①この時点が、イエスの「辱め」のどん底であった。

②下りきった先には、上りが待っている。

(2) ロマ 4：25

「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです」

結論：このことばの現代的意味

1. 「キリストにあって」という概念

(1) これを「位置的真理」という。

(2) イエスをメシア（キリスト）と信じる人は、「キリストのうちにある」。

(3) ロマ 8：1

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません」

(4) 2コリ 5：17

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

(5) キリストの受難と復活は、私が体験したこととなっている。

①すでに起こった。

②やがて完成する。

2. 大祭司という概念

(1) 神と私たちの間に立つ仲介者

(2) ヘブ 4：15～16

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでしたでしたが、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか」